

エコ・あぐり・Town くねっぴ 応援団だより

No.52

令和2年5月1日発行

訓子府町の「ふるさと応援団」に参加いただき、ありがとうございます。
皆さまと訓子府町を結び便りにできればと考えております。

まちの歴史を振り返って

元号が平成から令和へと新時代に入り、訓子府町も昨年4月に第19回統一地方選挙が実施され、町にとっても新たなスタートの年でした。そして、令和2年は開町100周年・町制施行70年の節目の年です。

今回は、最近のトピックスなどをご紹介しつつ、訓子府町の歴史を振り返りたいと思います。

武蔵野美術大学と連携し、身近に芸術があるまちへ

大学と連携しアート作品を展示するプロジェクトが実施され、“鉄”を素材にして、飛躍的に発展した訓子府町の現在を表現した作品が制作されました。

作品を見た方から、「訓子府の農業の歴史がアートになったんですね！スゴイです！」との声がありました。



作品名
『おきあがるもの』
レクリエーション公園設置

(制作者と作品)

「開町100周年・町制施行70年と新型コロナウイルスとの闘い」

2020年は開町100周年・町制施行70年の記念の年です。町では町民アンケートなどを実施して記念事業を募集しました。その結果、「開町100周年記念式典」の挙行をはじめ、訓子府賛歌「100周年記念の歌」の作成や訓子府物語仮称「クネっぴから訓子府へ」作成、そして東京オリンピックにちなんで「町民運動会」開催の準備が進められてきました。ところが昨年12月に中国武漢市で発生した「新型コロナウイルス」はアメリカやイタリア、フランスなど全世界に蔓延しています。

国内では東京都等、1都6府県で猛威を振るい安倍首相は4月7日に「緊急事態宣言」、4月12日には北海道と札幌市の「緊急共同宣言」が行われました。こうした状況から恒例の「老人芸能大会」を皮切りに「NHK真打競演」、「町民運動会」と矢継ぎ早に中止が決まりました。訓子府小学校スクールバンドは10年連続出場が決まっていた全国リコーダーコンテストも中止、さらに町最大の夏のイベント「ふるさとまつり」の開催も中止になり、もし、このまま感染が沈静化しなければ各学校の運動会等の開催も危ぶまれています。



しかし、この無力感にさいなまれてばかりではありません。町では商店街の厳しい状況を踏まえ、中小企業への支援策の第一弾として「信用保証料の全額補助」を決め、町商工会では4月20日から飲食限定の「プレミアム商品券」の発売開始などの取り組みがスタートしました。開町100周年・町制施行70年の歴史的な年に、すべての町民と共に前を向き、新型コロナウイルスの猛威に立ち向かい飛躍の一年にしたいと決意を新たにしています。

町長's Eye



訓子府町がホームページをリニューアルしました

訓子府町のホームページが3月25日にリニューアルしました。新しいホームページは、より使いやすく、より見やすく、情報を探しやすいデザインやメニュー構成になりました。また、スマートフォンやタブレット端末などのモバイル端末に対応し、それぞれの画面に適したデザインで表示されます。



訓子府町は令和2年、「開町100周年」を迎えました

訓子府町は、大正9（1920）年に旧置戸村から分離独立し「訓子府村」として誕生しました。この分村を訓子府の「開町」とし、令和2年に100周年を迎えました。同時に町制施行70年の節目です。町では、記念事業などで節目を祝います。

■開町の位置付け 大正9年に置戸から分村

明治30年に13戸の北光社移民団により、開拓の鋤が下ろされました。

開拓直後、訓子府は野付牛村（現北見市）に属し、大正4年には、野付牛村から分村した置戸村に属しました。この分村の直前に、役場の所在地を巡って、訓子府地区と置戸地区の住民による激しい綱引きが繰り広げられました。最終的に置戸市街地に役場が設けられ「置戸村」が成立したと、訓子府町史などに記されています。

大正9年5月5日に北海道庁が置戸村を分割し「二級町村訓子府村」を置く告示を行い、6月1日に訓子府村がスタートしました。苦難の開拓から23年が経過し、開拓者ら多くの住民の悲願が実った年でもあります。

本町では、この分村・独立の日を「開町」と位置付けています。

当時の村勢は1,146戸、人口6,592人、初代村長には、野付牛町の上席書記、山崎亮智が任命されました。

■昭和26年に町制施行

明治の「開拓」、大正の「分村」、昭和の「町制施行」（昭和26年）と着実に発展し、平成8年には開拓から100年という大きな節目で「開基100年記念式典」などの記念行事を繰り広げました。



ビート収穫
(大正末期頃の様子)



叶橋工事の様子
(昭和9年)

応援団トピック

訓子府座公演 町内外から大勢来場

町内の劇団「訓子府座」のによる演劇「雪の女王」が、2月23日に町公民館で上演されました。

平成26年に劇団を旗揚げしてから今年で5回目の公演。「雪の女王」は、デンマークの代表的な童話作家、アンデルセンの原作を座長の林亜佐子さんが脚色し、脚本を書きました。

会場には、町内外から約230人が訪れ、出演者の熱演に温かい拍手を送っていました。

座長は「今年度も無事に上演することができました。町内外からたくさんの方にご来場いただき、また、多くの方に協力、応援していただき、感謝しています。これからも地域に根付いた活動を長く続け、皆さんに愛される劇団となれるようがんばります」と話していました。



「雪の女王」公演

北海道常呂郡訓子府町東町398番地

訓子府町役場企画財政課

Tel 0157-47-2115 Fax 0157-47-2600

E-mail: kikaku@town.kunneppu.hokkaido.jp